

# 私と鶴見酵素栄養学の出会い

獣医師 平郡拾玖



今はその名も無くなってしまった田方郡戸田村「招津市戸田」と言う西伊豆の山と海に囲まれた小さな村で生まれました。両親はその村でたった一軒の外科、内科、婦人科、耳鼻科、小児科、皮膚科と何でもこなさなければならぬ医者でした。

両親が忙しいため小さい頃の私は庭で遊ぶ猫達が遊び相手でした。父が軍医だったこともあり物心ついた頃は大きなシェパードが遊び相手になっていました。小学生の頃は保健所からよく野犬狩りが回って来ていました。トラックに大きな鑑を乗せた車が来ると子供達の間では犬取りが来たと言って、大急ぎで自分の家の犬を紐で縛ったものです。いつもはほとんど放し飼いでしたから私は飼い主のいない犬を抱えて家に逃げ帰り何時も母

ルギーの犬の多い事です。昔はタマネギだって平気で食べていた犬たちがです。今、私が一番心配しているのは、奇形仔の出産が増えて来ていると言う事です。私が話にする事が出来るのは本当に僅かだと思いますがそれでも増えて来たと感じるのは、私が目に出来ない所ではきっと沢山の奇形仔が生まれているのではないかと感じています。

私がたくさん飼った犬や猫での経験の中にそんな病気や奇形仔の出産などは有りませんでした。10年ほど前から私のどうして?何故なの?が始まったのです。そんな私の疑問に答えてくれたのが鶴見先生の酵素の本でした。何冊も読みました。



に叱られていました。中学生になった頃の記憶だと思いますが、或いはもっと小さい頃の記憶かも知れませんが、父が猪に脇腹を裂かれた犬の手術を庭でしている所を何度も見ました。そのお礼に猪の肉を買って食べた記憶も鮮明に残っています。戦争も終わって大分経っていたとは思いますが漁村でしたから新鮮な魚は、たくさんもらいましたがお肉を食べる事は、あまりまだ無かったので印象深く覚えているのだと思います。そんな小さな村で育った私が中学生の頃から獣医師になると決めたのは、父に手術してもらった犬の元気な姿を見たからでしょうか。獣医師がどんな物かもどうすれば獣医師になれるのかも何も知らなかった中学生が、ただその思いだけで大学進学の際に父の意に反し獣医大学に進む事を許してもらいました。

そして、犬を花嫁道具に結婚して開業50年目を迎えるようになっています。私達が開業する頃は顕微鏡と診察台があれば開業が出来た良い時代でした。交通事故で骨折した犬も開業当初は従兄弟の外科病院に連れて行ってレントゲンを撮ってもらっていました。今ではとても考えられない事です。その後花嫁道具に加えペグニーズ、ブードル、ス

また関連している本もたくさん読みました。私が探していた答えがここにある事を確信し、どうしても鶴見先生にお会いしたいと思うようになりました。そして、まるで導かれるようにその願いが叶い先生にお会いでき、本当に酵素の勉強をする事になりました。おかげで確信を持って飼い主さん達に食物酵素のお話をして生食を勧めております。

「生であけても良いのでしょうか。」と言う飼い主さんの多い事には驚いてしまいますが、生を食べさせてはいけないと言う獣医師の多いのにはもっと驚かされて困ります。犬や猫の食性を考えたら生食こそが最適な食事のはずなのに不思議でなり

キッパーキー、Aコッカスパニール、Mシユナウザー、ポメラニアン、ヨークシャテリア、ドイツポインターセッター、ボルゾイ、シーズー、ブルドック、パピヨン、チワワ、ビズラなどの犬に加わり何匹もの日本ネコ、チンチラやベルシャ猫、シャムネコ、アビシニアンバーミユウズなどの猫も加わり沢山の犬猫と暮らせる環境で獣医師としての私は色々な貴重な経験をすることが出来ました。

物心ついて以来私の傍から犬や猫がいなくなった事はありませんでした。今から思うと本当に良い時代に獣医師になったと思います。開業当初はジステンパーや織血性レプトスピラ症、フィラリア症などの感染症が多く、また交通事故や療癖症、アカルスなどの皮膚炎が多く今では考えられない程お腹にもたくさん虫がいました。予防薬が出来たおかげでフィラリア症やジステンパーの様な感染症に罹る犬はいなくなりましたが、それに代わってアレルギー性の病気やガン、関節炎また心臓や腎臓などの臓器から起こる治りにくい病気や繰り返し起こる病気が増えてきています。その上、何とも不思議に思えるのですが、糖尿病やあれも食べてはダメこれも食べられないと言う食物アレ

ません。ただ生食に慣れていない子には気をつけなければなりません。私は、開業当初のように元気で野性的なペットが増えてくれる事を願いながら、「飼い主さん、あなたのペットは縫いぐるみではなく大草原を駆け回っていた生き物なのです。」と言い続けていきます。そして私は中学生時代に何も分からず獣医師になろうとした意味がここに有ったのではないかと

思っております。酵素を知る事ができて私の獣医師としての人生はとても素敵なものになりそうです。鶴見隆史先生にお会い出来た事を心から感謝いたします。

